

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和6年2月29日現在

今月の重点活動

■岐阜地域普及活動検討会 『明日の農業を考えるセミナー』を開催

岐阜農林事務所は、県の4つの基本方針を踏まえて作成した「未来につながる都市近郊農業・農村の実現」を基本理念とする普及指導計画に基づき、市町、JA、関係団体と連携強化を図りながら、現場重視による普及活動を展開している。2月14日には、岐阜地域普及活動検討会「明日の農業を考えるセミナー」を岐阜県シンクタンク庁舎で開催し、農業者と関係機関職員の68名が出席した。

当日は農林事務所から、「えだまめ、にんじん、エゴマ、だいこん、いちご」に関する5つの普及活動事例を報告し、出席者との意見交換並びに取り組みの検討を行った。また、JAぎふから「徳川将軍献上米御膳糲復活プロジェクト」の活動取り組みの報告、ぎふアグリチャレンジ支援センター及び岐阜県農業会議から新規就農者向けの情報提供が行われた。

出席者からの「栽培面積が減少するなど、営農環境が厳しくなるなか、農林事務所からの技術情報提供と改善提案の取り組みに大きな期待をしている」との声に応えるべく、関係係機関と密接に連携を図りながら、岐阜地域農業の持続的発展に向けた普及活動の取り組みを今後も職員一丸となって進めていく。

【検討会の様子】



(地域支援第一係)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜農林高校 『農業の現場を学ぶ出前講座』を開催

岐阜農林事務所は2月7日、岐阜県立岐阜農林高等学校の流通科学科2年生を対象に、「農業の現場を学ぶ出前講座」を開催した。この講座は、地域で活躍する若手農業者を派遣し、農業の現状や経営の考え方を伝えることで、生徒の農業への理解を深め、就農を含めた進路選択の参考とすることを目的に、農林事務所が高校と連携して実施しており、令和5年11月に続く2回目の開催となる。

今回は岐阜地域青年農業士連絡協議会の会員である渡邊裕介氏、同協議会OBの関谷英樹氏の2名が講義を行った。渡邊氏は羽島市内で父親から水稻経営を引き継ぎ、農業法人を設立して経営を発展させてきた経験を、関谷氏は瑞穂市で柿経営に新規参入し、販売と地域PRに工夫してきた経験を語られた。生徒からは、農業で苦労した点など現実的な質問が多数あり、有意義な意見交換がなされた。また、農林事務所からは生徒へ農業大学校等の情報提供を行った。

農業の担い手は新規参入が増えつつあるが、農業高校や農業大学校の卒業生は地域の核となる重要な人材である。農林事務所は次年度以降も両校と連携した担い手育成を行っていく計画である。



【講義いただいた二人】

(園芸産地支援第一係)

■担い手 女性農業経営アドバイザーが視察研修会を開催（GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロック）

岐阜県は、農業経営に自ら参画し、地域活性化などに貢献する女性農業者を「女性農業経営アドバイザー（通称 GLAMA）」に認定している。

岐阜管内の GLAMA で組織する GLAMA いきいきネットワーク岐阜ブロックは、自らの資質向上を目的に、先進地視察や研修会等の組織活動を実施しており、農林事務所はその運営を支援している。

令和6年度は「地域農業の活性化を考える」をテーマに視察研修会が企画され、2月5日に安城産業文化公園デンパーク（愛知県安城市）と JA あぐりげんきの郷（愛知県大府市）を訪問した。

当日は雨天のため屋内施設中心の視察となったが、デンパークでは農業のテーマパークとしての見せ方などを、げんきの郷では地域と連携した6次産業化商品の販売や施設を活用したPR方法などを視察した。GLAMA は地域の女性リーダーとして農業委員や JA 理事などへの就任が期待されることから、地域活性化の事例やアイデアを収集する良い機会となった。

農林事務所は組織活動の活性化を通じて、引き続き女性農業経営アドバイザーが取り組む経営改善を支援する。



【視察研修の様子】

（園芸産地支援第一係）

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■スマート農業 収量コンバインデータ活用の取り組み

近年、ドローンなどスマート農業機器の導入が進んでおり、土地利用型農業経営体においては、収量コンバインの導入数も年々増加している。そこで農林事務所では、水稻の収量及び品質の向上に向けて、収量コンバイン収集データの分析とその活用支援に取り組むこととした。

2月6日、データを提供していただいた生産者、JAぎふ、全農岐阜の関係者が集まり検討会が JAぎふ本店において開催された。農林事務所は収量コンバインで得られたデータと収量調査データとの比較分析結果



【検討会の様子】

について説明した。また、品種による傾向やバラツキの状況、減肥しても収量確保が可能と判断されるほ場を地図化し、併せて減肥に関する施肥改善提案を行った。

地図化することにより、生産者からは「このほ場は〇〇で、生育は〇〇だった。」という声が出され、また減肥提案を行ったほ場については、肥料を減らすことで来年どんな収量結果となるかは是非確認したいという意見も出された。

今後も農林事務所は、収量コンバイン収集データの分析とその活用方法について助言を行うとともに、その他のスマート農業技術についても各種データの収集と情報提供を行い、岐阜管内におけるスマート農業技術の普及を進めていく。

（地域支援第三係）

■岐阜地区有機農業推進プロジェクトチーム 第2回担当者会議を開催

岐阜地区有機農業推進プロジェクトチームは2月26日、第2回担当者会議を各務原市産業文化センターにおいて開催した。会議では、岐阜市、各務原市、山県市、JAぎふ及び県農産園芸課担当者から、令和5年度の有機農業に関する取組み状況が報告され、農林事務所は各務原市に設置した営農モデル実証ほの試験結果について説明を行った。



【営農モデル実証を視察】

当管内には、地域における有機農業の取り組み方針や生産、加工、流通及び消費の拡大に資する事項を定めた計画を策定したことを首長が宣言する「オーガニックビレッジ宣言」を目指している市もあるため、県農産園芸課ぎふ清流GAP推進係担当者から、オーガニックビレッジ宣言へ向けた有機農業産地づくり推進事業の実施工程について詳しい説明が行われた。

室内検討終了後には各務原市下切町へ移動し、現在も栽培が続く営農モデル実証ほの概要について、JAぎふ地消地産推進室担当者から説明を受けた。

(地域支援第二係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

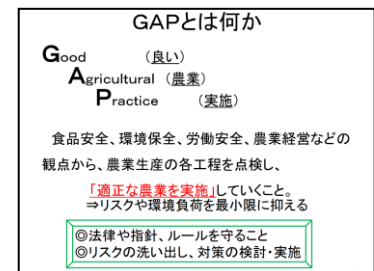
■ぶどう・長良ぶどう部会 GAPとインボイス制度に関する研修会

長良ぶどう部会は2月16日、「GAPとインボイス制度に関する研修会」をJAぎふ長良支店で開催した。岐阜農林事務所からは、GAPの概要やその目的、具体的な評価基準等について説明した。

農林事務所は、GAPは農業を行う上で起こりうるリスクの低減を図る取組であり、実際に農業経営の中でどの様なことがリスクになるかについて、評価基準と具体的事例を挙げて説明を行った。

まずは自身の経営の中でどの様なリスクがあるかを点検し、そのリスクを低減するための「計画」を立て「実践」し、定期的に「点検・評価」を行い、「見直し・改善」を行うことで、より良い経営につながる効果があることを理解してもらったところ、出席者からは「大変だけどやらないかんかな」といった意見が聞かれた。

農林事務所は、自分がケガをしない様にするためにはどうしたら良いか等、身近なリスクの点検から始めることができるようGAP取り組みを推進していく。



【研修会の資料】

(園芸産地支援第二係)